

深川消防団ニュース



さきもり

発行 深川消防団
所在地 〒135-0042
東京都江東区木場
3丁目18番地10号
深川消防団本部
TEL:03-3642-0119
FAX:03-3641-4422

東京都消防操法大会に深川消防団が出場!

東京都消防操法大会が10月14日(土)に東京消防庁消防学校(渋谷区西原)に於いて開催され、第七方面を代表して深川消防団が出場します。

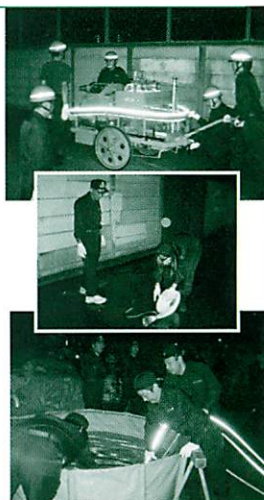
今回は、深川消防団消防操法大会の出場隊のうち、第三分団中心の混成チームで出場します。

出場隊は優勝を目指し7月10日より練習に励んでおります。さきもり編集員が取材した選手・支援各分団の意気込みと練習風景を紹介します。



訓練指導者である宮内副団長は、今回から町野式結合という事もあり選手に消防操法においては、まず基本操法と云われるように「正しい規律・確実な動作」を繰り返し練習する事が大切であり、その結果操法の基準時間(1線延長55秒、1本増加45秒)の短縮に繋がるといふ事を選手個々が十分自覚し、練習に励み、大会で良い結果(優勝)を出してほしいと願っているそうです。

練習と支援の様



操法都大会激励会行われる

〔期日〕8月25日

〔場所〕ホテルイースト21

夏季幹部親睦会が深川消防署長、友の会、増茂団長以下団幹部が参加して行われ、特に今年には都大会に出場する選手の激励会も合せて行われました。高橋署長をはじめ来賓の方々の挨拶につき各選手より抱負が述べられた。リーダー平山第三分団長「伝統ある深川消防団の代表として、しっかりと訓練を積み重ね本大会に臨みたい。」サブリーダー岡本第四分団長「強化

選手のみならず、各分団のサポートのおかげで、深川消防団全体の結束力を感じている。このチーム力が本大会の結果として現れることを信じている。」指揮者 赤澤副分団長・三分団「訓練の結果を100%発揮できれば、都大会でも結果を出せると確信している。」一番員 小野班長・三分団「一番員は初めてなので、覚えることも多いが、代表として恥じぬよう、訓練を重ねたい。」

二番員 古屋団員・四分団「甘えず、奢らず、謙虚な気持ちで訓練を重ね、本大会において上位入賞を狙いたい。」三番員 大野部長・三分団「今回は体力、気力ともに万全とし、三番員としての任務を全うしたい。」

四番員 佐野班長・三分団「消防団全メンバーから支援を頂いている。その期待に応えられるよう、チームワークを高め、全力で取り組みたい。」補助皆川団員・四分団「選手が100%、実力を発揮できるよう、しっかりとサポートしたい。」

日々の訓練には、各分団から支援員が派遣され、選手が実力を発揮できるよう、消防団全体でサポートしている。(第10分団 金子編集員)



★町野式結合について★

結合型式は、ねじ式と差込み式の2種があり、差込み式はマチノ式と呼ばれ、操作性が良いため、全国的に主流である。マチノ式の歴史は古く、自治体消防発足時には、すでにかんりの数が普及していたマチノの語源は、マチノさんと言う人が開発したと言われたことから、マチノさんの苗字をとって町野式になったと言われる。(数多くの古消防署員による伝聞)

深川消防団 消防操法大会を振り返り

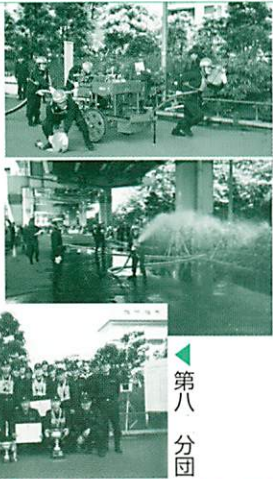
【期日】5月21日(日) 一
【場所】冬木町・首都高9号線高架下

第二十八回消防操法大会が、消防署の指導のもと多数のご来賓をお招きして開催されました。

消防団活動の中でも、火災現場活動の基本となる可搬ポンプの操法技術向上は最も重要な項目です。

今年度は都大会に、深川消防団が出場するとあって各分団一生懸命でした。

大勢の観客の見守る中、日頃の訓練の成果を発揮しようとする選手の真剣な眼差しが印象的でした。又、サポートする団員、応援する団員や、その家族の声援が青空に響いていました。



第八分団

団体 優勝 第八分団

準優勝 第三分団

第三位 第四分団

個人 指揮者 川口 班長 (第八分団)

一番員 赤澤 副分団長 (第三分団)

二番員 古屋 団員 (第四分団)

三番員 大野 部長 (第三分団)

四番員 鳩貝 部長 (第八分団)

△消防操法とは▽

消防団の消防操法には、操法基準により基本操法と応用操法があります。本大会では、指揮者1名と隊員4名により、ホース3本による1線延長の基本操法と、付加操法として、ホース1本増加操法を実施いたしました。

夏の正服が 新しくなる!

今年度、消防団の夏用正服が新しくなりました。今までの正服とは全てにおいてデザイン等が変わり新たな消防団が旅立つような感じを受けます。今回の合同点検にて初めてお披露目いたします。



第四分団 皆川団員 (左)

第三分団 中島団員 (右)

◆各団の主な行事活動等◆

二〇〇六防災シンポジウム

【期日】8月30日(水) 一
【場所】東京消防庁消防学校

2006・防災シンポジウムに参加基調講演・震災に備える防災コミュニケーションづくり
いつ起こっても、おかしくないと言われていて、首都直下型地震が発生した時、救助隊が来るまでに、どういった初期行動が取れるか
日頃から個々の防災意識の向上に努める必要がある。

もちろん消防団員

としても、近隣の早くて正確な情報も得なければなりません。そのためには、日頃より、ご近所の様子が変わるように、近隣の方々とのコミュニケーションを作ることが必要です。その手段の一つとして、飲みニケーション(酒・お茶等)が大切であるように思われます。



今年の日帰り家族旅行

【期日】5月28日(日) 一

第五分団では、毎年5月末頃に団員とその家族が参加する行事として、食事会と日帰りバス旅行を交互に開催しています。これは消防操法大会の慰労と日頃消防団活動に協力してくれる家族への感謝の意味を込めています。総勢34名で川越に行ってきました。増茂団長のお見送りを受けて門前仲町駅近く

を出発する時はあいにくの雨模様でしたが、川越到着後は次第に雨も上がり、喜多院や土蔵作りの町並み、川越城等を観光し、昼食には川越の名物であるさつま芋尽くしの

お料理を賞味した。バスの中でも抽選会などを実施して盛り上がる中、解散となりました。

来年は食事会の年です。



消防操法大会で、良い成績を上げ、おいしい料理をいただけるようにと、これからの活動に精進したいと考えています。 (第五分団 高橋 編集員)

レインボーFMに出演

【期日】6月3日(土) 一

6月3日(土) 第八分団 鳩貝裕幸 部長と鳩貝秀樹部長はレインボーFM「関弘毅の明日があるさ」(FM79・2MHz)に出演し、2時間におたり深川消防団の活動報告などを行った。内容は消防団の組織や成り立ち、普段の活動や訓練、意義など広範囲にわたり深く説明し、一般の視聴者からも番組中に「今まで消防団がどんなことをやっているのか知らなかったが、今回の放送でよく理解できた」という反響がメールで寄せられた。

(第八分団 庄井 編集員)



深川消防団員募集中!! 女性・勤務者
● 入団資格 ● 心身ともに健康で、18歳以上の方
● 学生の方大歓迎
● 団員募集要項は、本誌18頁に掲載
● 募集要項は、本誌18頁に掲載

夏の警戒

- ◆ 猿江神社奉納踊り
- ◆ 住利、猿江二各町会納涼
- ◆ 毛利納涼花火大会

【期日】7月30日～8月19日



富岡八幡宮二の宮渡御

【期日】8月13日

平成9年の初渡御以来、氏子町会を渡御するのは本年度3回目。重さ約2トンの神輿は、各部会(7部会)



を引き継ぎ、担ぎ手の燃えに燃えての熱気が終日、深川を包みみました。

その神輿渡御に欠かせないのが、水掛です。そこで、活躍するのが消防団放水訓練による大量の水の供給には各分団が担当し、そのトラックの荷台からは各町睦等が一斉に息ができないほどの水掛が行われます。

これは深川消防団と地元がひとつになる独特の夏行事の一つです。これだけの水を供給し、深川水掛祭りの良さをアピール出来た事に、消防団の方の援助に感謝いたしますと、神輿総代さんよりお言葉をいただきますし(第六分団 青柳編集員)

深川神明宮例大祭

【期日】8月12・13日



東京湾大華火大会(期日)8月13日



今年は天候により一日順延し、13日に10分団によって警戒が実施されました。

特別消火中隊発足(豊洲出張所)

特別消火中隊が豊洲出張所内に発足しました。

この特別消火中隊とは、近年複雑多様化する消防活動の困難性・危険性の増大に対し、消火・火災救助活動体制の強化を図るためで、庁内専門技術の認定者や公的な資格保持者など、専門知識や技能を有する隊員で組織されています。

豊洲出張所内に発足したのは、もともと、同出張所に石油コンビナート等の大規模な危険物火災等の専門部隊があり、今後、消火体制をより強化するために新編成しました。

特別消火中隊の活動は、火災現場では他の隊と連携し消火活動の中核として、又、地下空間等の災害などの大規模・特異で活動困難な局面に集中的に出場します。

服装は、黒い防火衣に、後頭部や耳を保護するために工夫された、形状のゴールドのヘルメットを身に着け、又、特別消火中隊としての

- ① 防火マスク
 - ② ヘッドマウントライト
 - ③ バッテリードリル
 - ④ 新型手袋
 - ⑤ 汎用無線機
 - ⑥ 検索用高機能ロープ
 - ⑦ A-1 キヤップ
 - ⑧ 検索用発行ロープ
 - ⑨ ガンタイプノズル
 - ⑩ 非接触温度計
 - ⑪ 強力ライト
 - ⑫ 携帯用破壊器具
- 等、特徴ある装備をしています。

消防団豆知識

※定期健康診断の受診について

毎年実施されている消防団員の定期健康診断について、考えて見たいと思います。団員は定期健康診断の受診を奨励されていますが、ここで受診の目的を把握したいと思います。

人は健康な時ほど、他人が具合悪い時をうらやむところがあります。しかし、いざ自分が病気になる健康が一番であると感じるものです。

これが人間の本性であると思われれます。消防団員は、地域住民の安心・安全を守る第一者として、団員本人が災害現場で倒れたり体調を崩したりしたのでは住民からの信頼を逸してしまふ事になりかねません。また、健康な時程、自分の体調に気にも留めず、健康診断を行なわなければ、か病院等での健康相談も行いません。

しかし、消防団員は何時起こるか分からない災害に備えて自分の体調を常時万全にしておかなければなりません。この様な観点から消防団では定期健康診断を年1回実施しているわけです。定期健康診断の検査項目により、自分自身の体の健康を確認し、団員一人ひとりが健康体を維持して行くことを消防団員として自覚する事が必要です。

深川消防団では、今年の定期健康診断を7月25日午前9時00分から17時00分まで深川消防署内において実施しました。今年の実験結果は、年齢が35歳以上の対象者が235名で、受診した方が187名(内訳自己団で受診152名、他の消防団で受診14名、会社等で受診21名)受診率79・57%でした。ちなみに受診率90%以上の分団は第3、4、5、6の各分団でした。

来年以降は実施日を団員が受診しやすい日程(土曜日ないし日曜日等)を考慮する予定ですので、定期健康診断の目的を十分に理解して100%の受診率になるよう努力しましょう。4面 団員自身と地域のために!



お問い合わせ ● 深川消防団本部(深川消防署内) 電話 〇三(三六四二)〇一九



【成績発表】

3面より
これらの装備品は消火と人命救助をより効率的かつ安全に行えるよう工夫された操作性と機能性の高い最新式の資機材です。
発足にあたり、平成18年7月28日深川消防署にて、来賓を迎えお披露目式が行なわれました。
(第六分団 青柳 編集員)

体力錬成会(ボーリング大会)
【期日/9月17日】
【場所/ドウ・スポーツプラザ晴海】
9月17日(日) 団員の士気を高め、体力錬成のためのボーリング大会が開催された。大会委員長である子安第10分団長による開会宣言の後、増茂団長、高橋消防署長による始球式が行われ、ゲームはスタート。当日は第10分団エリアでの開催ということで、子安分団長から特別賞(布団等)他賞品多数も提供され、大会を盛り上げた。「これからも、地域の安全・安心のために、団員同士の結束を強め、日々の訓練に励んで欲しい」。沖田警防課長のあいさつで大会は終了しました。

- 団体
- 優勝 第九分団
 - 準優勝 第四分団
 - 第三位 第七分団
- 個人男子 優勝 阿曾 班長(第七分団)
優勝 関 由美子さん
女子 優勝 関 由美子さん
(関 篤史 団員の奥様・第五分団)

消防団員江戸切子で産業局長賞
【関東経済産業局長賞】
【平成18年9月12日】
【第6回関東伝統工芸士会作品コンクール】
第一分団 分団長 小林 淑郎
思いがけない賞をいただき大変光栄です。
今後とも、江戸切子の作品づくりに精進していくつもりです。
消防団活動との両立で!

北朝鮮からの飛翔体発射時における東京消防庁の対応について
*平成18年7月5日未明、北朝鮮から何らかの飛翔体が発射された事案が発生したことから、東京消防庁は次のように対応しました。
東京消防庁の3階作戦室に本部警戒本部を開設した。
それに伴い重点警戒指定署は、庁舎の警備及び情報収集体制の確保を行った。さらに、北朝鮮等関連施設の動向についても情報収集を実施した。当署においても、警戒本部長の命に基づいて、警戒を実施した。深川消防団に対しても消防団長命により情報収集体制の確保を依頼した。

私のすきな事シリーズ②

深川消防署長高橋智章さんを、ご紹介致します。
署長として、団活動に対してのご理解が大変深く、「消防団は地元を骨を埋める人々で構成されている」「署と団が連携する事が大切」とのお考えをお持ちでいらつしやいます。

消防士になられた理由は、人さまに喜ばれるサービスを提供したいと東京消防庁の門をくぐる。
モットーは 地域に役だつ事をする
実体験が大事

立場上、いつでも現場に出場しなければならず、消防署隣の官舎にお住まいです、必然的に長時間の外出も難しく、大好きなドライブ(昔は海を見てトンボ帰り)もままならず、以来、近場でボウリング(スコア200点)カラオケなど多趣味だそうです。

現在は、絵手紙や習字などに押ししたりする判「篆刻」に凝っているそうです。
版は、文字を逆に彫るため最初は、苦勞したそうですが、今は慣れ彫っている時は大変気持ちよく着くそうです。

昭和二十二年 福島県二本松市生まれ
特別救助研修第4期生
海外において救助及び指導にあたる
平成十六年 十月より深川消防署長
現在に至る

略歴

広報用腕章の紹介



篆刻



高橋署長の作品

※消防団の広報用の腕章を作成しました。腕章を付けている団員は、深川消防団編集員として、取材を致しますので、皆様のご協力をお願い致します。(本団及び各分団に配布してあります)

編集後記

早いもので「さきもり」も一年に三回発行との予定で実施してまいりましたが、本号がその三回目になりました。

編集委員一同の努力と団員皆様のご協力そして深川消防署のご援助があったからこそ思っておりま。各号の発行にあたり色々編集内容について試行錯誤と編集会議における議論を交わしながら進めてまいりました。読者の皆様にもこれからも喜ばれるように、益々編集内容を充実させてまいりますので、ご期待と更なる取材協力等お願いいたします。